

昭和こよう会便り



令和7年度を振り返って

会長 高島 善行

今年度は38期新入会員6名を加え、100名（男性52名、女性48名）の会員数でした。昨年度は「あそびの広場」「昭和区区民まつり」が、台風及び衆議院選挙投票日と重なり中止になりましたが、今年度は鯨城会主催のグラウンド・ゴルフ交歓会が雨天中止になった以外、殆どの行事は予定どおりできました。昨年度中止になった土鈴絵付け体験は、「あそびの広場」で30名、「昭和区区民まつり」で97名の子供たちに体験していただきました。また、クリーンパートナー等の社会奉仕活動で地域社会に貢献するとともに、毎月の行事（印章歴史館見学、名古屋競馬場見学、ぬくもりの森バスツアー、陸上自衛隊守山駐屯地見学、恵那峡バスツアー等）、趣味の作品展で会員相互の親睦を図ることができました。

そして、16区フェスティバルについては、総合3位に入り表彰状と副賞をいただきました。これからもアンチエイジング（抗老化）で過ごせることを願っています。

鯨城会活動

地域ミーティングと区会説明会の開催

33期（生活A） 川原 山田 浩

鯨城学園では、まもなく卒業される 39 期生の皆さんが、卒業後区鯨城会へ入会して、地域での活動に加わっていただくための、地域ミーティングと区会説明会が開催されました。昭和鯨城会からは、会長及び各委員長と女性委員が参加して、入会の勧誘に努めました。

1 地域ミーティング

11月26日(水)の地域ミーティングには、昭和区在住の39期生27名のうち13名の参加がありました。高島会長と廣田みどり副学長のあいさつの後、2グループに分かれてグループワークを行いました。昭和鯨城会会員、39期生の順に自己紹介を行い、次いで39期生から、共通講



高島会長挨拶



廣田副学長挨拶



グループ別意見交換

座「地域活動学習発表会」の感想や、地域・ボランティア活動に対するそれぞれの思いなども交えて、自由活発に発表がありました。

意見交換の場では、昭和鯨城会から、質問のあった区鯨城会の同好会や委員

会の活動状況などを担当する各委員長が具体的に説明しました。

最後に、両グループの代表から取りまとめの発表と、副学長から感想等を含めたあいさつがあり終了しました。



各グループ取りまとめ発表

2 区会説明会

1月23日(金)の区会説明会には、17名(男性8名、女性9名)の参加があり、高島会長から改めて昭和鯨城会の組織概要や会議の内容、クリーンパートナーや土鈴づくり等のボランティア活動、趣味の作品展、日本銀行等の見学など月行事や、同好会活動、昭和こじょう会便りの発行などについて説明しました。

39期生からは、会議の時間や場所・同好会の詳細等について質問があり、それぞれ説明の上、再度入会の勧誘に努めました。



区会詳細説明風景



会長説明

ボランティア報告

昭和区ボラ連の「交流の広場」に参加して

33期 (生活A) 川原 山田 浩

昭和区ボランティア連絡協議会〔通称ボラ連、会長；黒尾純一(鯨城 28 期)〕は、現在、昭和鯨城会をはじめとした 18 の団体で組織され、毎月、役員会や交流部会等が開催されており、昭和鯨城会からは高島会長や片岡ボランティア委員長が出席している。

令和 8 年 1 月 31 日(土) の午後、ボラ連の行事の一つである「交流の広場」が昭和区社会福祉協議会で開催され、加入団体の代表者約 40 名が集まり、昭和鯨城会からも高島善行会長をはじめ 4 名が参加した。



黒尾会長あいさつ



あまりやんずバルーンアート

会は、桜花学園高等学校インターアクトクラブの中村美友さんによる司会進行のもと、黒尾純一会長の挨拶から始まり、女性 3 人グループの「あまりやんず」による軽妙なスピーチと、カラーの風船で雪だるまや花、虹などを作るバルーンアートが披露された。

昭和鯨城会からも、片岡ボランティア委員長により、長くなる指先ストレッチ、金属リングの通過すり抜け、観客を巻き込んだ 5 枚のカードの偶然一致などのマジックが 10 分にわたって演じられ、大いに昭和鯨城会を PR していただいた。

団体紹介では加入団体の代表者により、それぞれの活動内容やグループの特色等が PR を交えて発表され、高島会長からも「遊びの広場」「区民まつり」における土鈴の絵付けや、日本銀行名古屋支店等の見学行事、清掃の活動等が報告された。

交流会では 4 グループに分かれて、自己紹介、令和 7 年度の活動を通して良かったこと、新年度やってみようことなどの発表があり、桜花学園インターアクトクラブの彼女たちからも「土日、祝日にも慰問に出か



昭和鯨城会員のマジックショー

けると、年間 240 日ぐらいの活動になるので勉強の方も大変ですが、それでも、高齢者の方はもちろん保育園の園児さんに喜ん



参加団体の自己紹介

でいただけると、いつも楽しくやりがいを感じます。」等々と報告があり、楽しさとは、また一味違った余韻を感じました。



情報交換交流会

行事レポート

恵那峡・大井ダム見学と杉原千畝記念館を訪ねて

32期 (地域A) 松栄 水野 晃

11月28日の行事委員会主催の行事に参加しました。当日は晴天で素晴らしい紅葉が期待されました。

参加者19名で御器所を8時30分出発して、一路恵那峡に。恵那峡はダムの建設でできたダム湖で、旧中山道の宿場の名をとって大井ダムと名付けられました。100年の歴史を感じる紅葉と恵那峡は変わりませんが、周辺の



大井ダム

賑わいは以前と比べると元気がないと感じました。対岸のワンダーランドは営業していない？対岸とむすばれていたロープウェイが無い！その後、バスでダムの近くの駐車場に移動し、そこから標高差50m（山田さんの歩測？）下った大井ダムは圧巻でした。先人の苦勞がしのばれました。日本初の電力用の発電所だそうです。右岸上流80mより取水し

て、発電所の上のサージタンクへ送り、上からの勢いで発電所のタービンを回しているようです。詳細は省きますが、木曾川の発電所が関西電力のものとは？調べると難しい・理解できない理由があるのですね。

その後、JR恵那駅近くの老舗旅館「いち川」にて、土瓶蒸し付き懐石料理の昼食をいただき、八百津に向かいました。

八百津には、シーズンになると栗きんとんを求めて多くの観光客が訪れます。以前は、八百津といえば「八百津せんべい」でしたが、今は色々特色があるお店があります。その中で、広い駐車場がある「緑屋」さんで栗きんとんを購入して、杉原記念館に向かいました。広い丘の上に立派な施設が



恵那峡にて



「いち川」懐石料理



緑屋

ありました。私ごとですがもう半世紀以上前にTVのドキュメンタリー番組で命のビザのことを知りました。それは、敦賀への上陸、10日間の滞在という内容の日本通過ビザの発給で、本省の命令に背いたその行動のため、その後杉原千畝は冷遇されました。当時ドイツと同盟を結んでいた日本は、ドイツの顔色を窺っての判断だったのでしょうか？現代の日本はこのことに関しては変わっていない。

しかし、杉原の功績は、遠くイスラエルから認められ、その後外務省も杉原の名誉の回復をしました。杉原が学んだ愛知旧制第五中（現在の愛知県立瑞陵高校）の正門には、かなりのスペースで杉原千畝の生涯を紹介する展示があります。是非、訪れることをお勧めします。

人生は、決断の連続だといわれます。今回の行事への参加で少しでも今後の人生に生かせればと考えます。企画・運営された行事委員会と参加された皆さんありがとうございました。



杉原記念館にて

行事レポート

インターアクトクラブとの交流会

37期（音楽A）御器所 梶原 さかえ

令和8年まだ正月気分が抜けきらない1月10日、10:15 桜花学園高校に12名が集合。

「入校証」のストラップを受け取り中に入る。左手には全国的に活躍した証であるトロフィーと賞状がズラッと並び圧巻である。エレベーターで地下へ……。外見からは地下室があるとは思えず「えーっ」と。なるほど名古屋高速の吹上付近の掘割道路と同様に半地下構造だと、広い窓を見てよく分かった。その奥の会議室で交流会が始まった。

私たちは4人ずつ3チームに分かれ、そこにクラブの生徒が1人ずつ加わり、まずは互いの自己紹介をする。ミュージックベルの演奏で歓迎のオープニング。

「雪やコンコン」「幸せなら手をたたこう」で歌ったり手遊びの準備運動を？！続いて「イワシの開き」でリズムよく手遊びでニシン、サンマ、シャケ、クジラと歌いながらラストはかわいくポーズを決める。「ジイチャ バアチャやるネー いいぞー！！」。

次は大きな3枚のトランプ手品、黒色のドーナツ盤レコードの真ん中の穴に通したハンカチの色とレコード盤も同色に黄、赤、青と変化する手品。そしてバルーンアートで熊、うさぎ、ライオンなど細長い風船を駆使し次々出来上がり、欲しいのをお持ち帰りとなった。

そのあと、高島会長が昭和鯨城会の歴史を詳しく話し、生徒はみなさん熱心に聞いてくださり感心しました。

最後の締めで、ずっと後ろに控えてらした顧問の河合先生が30年前の平成7年立ち上げ時の話をされました。当時はボランティアのボの字も知らず、学園、職員の大反対を押しきって始めたとのこと、先生の信念、意志の強さに敬服しました。

ラストゲームは賞品5個ありのビンゴゲーム。はずれはクラブ員写真入りのティッシュです。ビンゴがなかなか決まらず長引い



た結果はみゆちゃんチームの私たちが3人もゲットしラッキーでした。

ちなみに「インターアクト」は「インターナショナル・アクション」の略で《幸せ届け隊》として現在もクラブ員が手分けし、年間150回と驚異的な活動をされています。参加者の私たちにも“幸せのお届け”ありがとうございました。



記念写真

ボランティア報告

クリーンパートナー

33期 (生活A) 御器所 片岡 晴彦

12月17日(水)、昭和鯨城会は「クリーンパートナー」活動として、御器所交差点から東郊通2丁目交差点までの約1.5kmの歩道清掃を行いました。当日は会員8人が参加し、風もなく穏やかな天候の中、気持ち良く活動することができました。

この日は、回収したタバコの吸い殻などの本数を数え、過去2年間と比較しました。その結果大きな増減は見られず、今回も吸い殻は566本のぼりしました。現状を知っていただくために、少し生々しいですが、回収したゴミの写真を掲載します。

1日で回収したゴミの数量

種別	今年	去年	一昨年
吸い殻(本)	566	520	646
空き缶(個)	21	40	32
ペットボトル(本)	23	10	13
スプレー缶(本)	0	3	2
45ℓ可燃ごみ(袋)	2	1	2



2025年の活動総括

昭和鯨城会では、地域の美化を通じた身近な社会貢献活動として、毎月第3水曜日9時30分からクリーンパートナーを実施しています。そのうち2月・5月・11月は清掃範囲を広げた「主要道路清掃」を行っています。2025年1月から12月までの参加者数は延べ147人で、1回あたり平均約12人でした。

こうした継続的な活動が評価され、2025年8月27日には、名古屋市からクリーンパートナーとして表彰されました。

火ばさみをカチカチと鳴らしながら歩道をきれいに歩いて歩くのは、意外に気持ちの良いものです。自分たちの手で地域を少しずつ

きれいにしていく、そんな小さな積み重ねが確かな社会貢献につながっています。

ご都合がつく会員の方は、散歩がてらに気楽に参加してください。

活動実績

実施月	参加人数(人)	ゴミ量(袋)	清掃範囲
1	7	5	
2	21	7	☆
3	11	4	
4	12	6	
5	19	5	☆
6	10	6	
7	8	3	
8	11	6	
9	9	5	
10	11	4	
11	20	6	☆
12	8	4	
計	147	61	

☆:主要道路



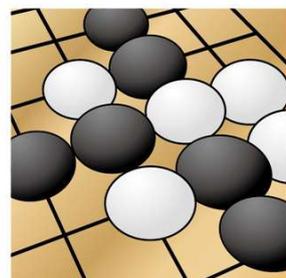
会員の広場

「囲碁の楽しみ」その後

31期（美術） 松榮 杉江 恵理子

2019年3月発行の昭和こじょう会便り第95号に、私は鯉城学園で初めて覚えた囲碁の楽しさを「囲碁の楽しみ」と題して掲載させていただきました。

学園卒業と同時に鯉城囲碁同好会に入会し、1年目は役員見習い、2年目から3年間は役員を務めることになっているとのことで、会計を担当することになったのですが、皆さんご承知の通り2年目の2019年12月にコロナウイルス感染症が発生し、3年目からは厳しい行動制限が始まって、学校も休業、会合も原則中止となるなど、これまでのような活動は一切できなくなりました。



認知症予防には最適だね

先輩たちがつないできた囲碁同好会の灯を、31期の4人で何とか次の世代に渡そうと話し合ったのですが、鯉城学園も休園となり、いつになったら次が入ってくるのか見通しも立たず、ほんとに苦しい日々でした。

活動場所の福祉会館も休館で、活動休止せざるを得ず、それでも役員は活動休止の連絡や新年度の会員募集の連絡など、つなぐためのもろもろの作業があり、結局、コロナウイルス感染症が5類に移行した2023年度も役員会は細々と活動を続けました。もちろん、直ちに学園の卒業生が出るわけもなく、2024年度も3人に減った役員で回しつつ、やっと入ってきてくれた後輩に、2025年度、無事、運営を引き渡すことができました。



初級講座

現在は荒畑に移転した昭和福祉会館で月3回（第2～4月曜日）、学園で月1回（第1月曜日）、それぞれ午前に対局を行っています。

また、新役員の皆さんは、私のような初心者向けに第1月曜日の学園と第4月曜日の昭和福祉会館で「初級講座」を設定してくれています。2019～2024年の間は、今後のことを相談したり準備したりで、ほとんど囲碁はできなかったけれど、今年度から心機一転、再スタートのつもりで取り組んでいます。

AI 囲碁もいいけれど、やっぱり対面で打つのが最高に楽しいです。年会費1000円で、対局結果によっては昇級・昇段できるチャンスもあります。

鯉城学園OBならどなたでも参加していただけます。お問い合わせは、杉江まで。



対局する著者

絹針に
糸を通せば
春そこに



春の訪れを感じ、半襟を付替え
きものを纏う高揚感を詠みました。

行事レポート

昭和鯨城会忘年会を開催

12月12日(金)、恒例の忘年会を「かごの屋桜山滝子店」にて開催しました。

参加者19名にて、飲み放題組、飲まない組別に、ともにとても楽しく、一年を振り返る一日となりました。(行事委員会)



編集後記

11月以降の昭和鯨城会活動は、表紙の「会長あいさつ」にあるとおり順調に進められ、その結果などを121号に掲載しました。

昭和鯨城会 「昭和こじょう会便り」 2026年3月121号

発行責任者 高島 善行

広報委員長 伏屋 満 副委員長 中村 誠司

広報委員 杉江 恵理子、桐山 宏之、岩井 芳隆、吉川 緑

表紙写真 「くつ下人形」

石黒良江、伊東和世、大河内早苗、加藤春子、近藤テル子、榊原寿々子、佐藤富士子、高橋正子、長谷川みや子、原田千里 女性10名(28期)

「28期女子10名でくつ下で人形を作りました。手や足を縫い、頭には帽子をかぶせ胴に頭をつけリボンを飾る。顔は作った人に似てると大笑い。作品展に出展し、かわいい人形の広場ができ感激でした。」

名古屋市高年大学昭和区鯨城会・名古屋市鯨城学園共同発行